

【国際シンポジウム プログラム詳細】

18:00 開場・受付開始

【第一部】 愛・地球博「市民参加」の意義・成果 ～ セクターを超えて

- 18:30 オープニング 市民参加事業5事業（「地球市民村」「市民プロジェクト」「EXPOエコマネーセンター」「愛・地球博ボランティアセンター」「森/里の自然学校」）の活動記録を映像で紹介。また、市民参加事業スタッフや一般来場者から募集した感想文「私が見つけた大切な種」も朗読などで紹介予定。
- 18:35 主催者挨拶 中村 利雄（(財)2005年日本国際博覧会協会事務総長）による「愛・地球博における市民参加の意義」について。
- 18:40 ゲスト挨拶 オーレ・フィリップソン（元 2005年日本国際博覧会国際諮問委員会委員長）による「国際博覧会における市民参加の意義」について。
- 18:55 成果報告 小川 巧記（元 愛・地球博 市民参加プロデューサー）による「市民参加事業の成果」について。

【第二部】 「私」から世界へ ～ 持続可能な社会をつくる

- 19:20 対話 市民参加の地球的価値（各ゲストの「活動」「原点」「評価」）を探る。
：小川 巧記（元 愛・地球博 市民参加プロデューサー）
：阿部 治（元 愛・地球博 地球市民村アドバイザー）
- 19:30 ゲストトーク 愛・地球博 市民参加事業に参加した海外ゲストによるトーク 「私の地球の愛し方」
：ポール・コールマン＜英国＞
―― 植樹活動を続けるアースウォーカー（木を植える男）
：アーネル・バナサン＜フィリピン＞
―― 村落開発を支援する、山岳民族のミュージシャン
：グレッグ・マイケル＜米国＞
―― 日本を徒歩で縦断し、各地で「生活の知恵」を探っている
：オルデンドウ・チャタジー＜インド＞
―― 持続可能な農業や農村を探求している
：アンニャ・ライト＜オーストラリア／エクアドル＞
―― 世界の森を守る運動を展開するシンガー・ソングライター
- 20:30 会場との対話 会場からの声を拾い、ゲストとの質疑応答。
- 20:50 まとめ 小川氏および阿部氏による、全体総括。
- 21:00 終了

【国際シンポジウム 一般参加者 募集要項】

5月19日（金）より、国際シンポジウム・一般参加者の募集を開始します。

* 申込み方法は、「ホームページ」もしくは「往復ハガキ」にて受け付けます。

* 定員の700名になり次第、募集を終了します。

ホームページからの申込み方法

「育てよう！愛・地球博の種」公式ホームページ (<http://www.seed.expo2005.or.jp>) 内

「国際シンポジウム」詳細ボタンをクリックして必要事項を記入。

往復ハガキでの申込み方法

1. 往信表面に、下記（申込み先）の住所を記入。
2. 往信裏面に、応募者の「郵便番号」「住所」「氏名（ふりがな）」「年齢」「電話番号」を記入。
3. 返信表面に、応募者の「住所」「氏名」を記入（返信裏面には何も記入しない）。

* 往復ハガキでの申込みは6月14日消印まで有効とさせていただきます。

【留意事項・注意事項】

- ・ 募集人数は、先着700名となっています。
- ・ 参加の可否は「返信メール」もしくは「返信ハガキ」にてご連絡いたします。
- ・ 「返信メールのプリントアウト」もしくは「返信ハガキ」が当日の参加証となりますので、必ずご持参ください。
- ・ お預かりした個人情報は、シンポジウム参加可否のご連絡以外の目的で使用することはありません。

【申込み先】

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄3-32-20

朝日生命矢場町ビル 「持続可能な社会づくり」シンポジウム事務局宛

【お問い合わせ先】

TEL : 052-262-5070

受付時間 (月) ~ (金) 9 : 00 ~ 17 : 00 ※土・日・祝日除く

【国際シンポジウム 出席予定者 プロフィール】 * 敬称略

■ポール・コールマン <英国>

植樹活動を続けるアースウォーカー(木を植える男)。

1954年イギリス、マンチェスター生まれ。1990年から2年間かけてカナダからブラジルまで歩き、第一回地球サミットに参加。1993年には、国連 Peace Messenger Initiative。2000年、20世紀に戦争で亡くなった犠牲者の数と同じ1億本の木を植えるため、中国へ徒歩の旅を開始。

2004年、ダライ・ラマ氏が受賞した Heart of Humanity 賞を受賞。

2005年、愛・地球博にて講演。沖縄を徒歩で一週し、沖縄戦の犠牲者の数と同じ23万本の木を植えるため、植樹活動を行った。

■アーネル・バナサン <フィリピン>

村落開発を支援する、山岳民族のミュージシャン。

フィリピン北部の山岳民族カリング族出身。日本での滞在経験もある。バギオ市に日本人の妻、子どもと居住し、音楽を通じて少数民族の権利を守る活動をしている。

■グレッグ・マイケル <米国>

日本を徒歩で縦断し、各地で「生活の知恵」を探る活動をしている。

米国ニューヨーク州出身、高校生のときに交換留学で北海道に、その後東京学芸大学に留学、同大学院で国際理解教育の修士号を取得。1990年から3年がかりで日本列島を歩いて縦断した。

■オルデンドゥ・チャタジー <インド>

持続可能な農業や農村を探求し続けている。

大学で会計学を学びながら、カルカッタのスラムの子どもらを支える活動などに参加。日本のアジア学院などで学んだ後、各種の支援団体で働く。

西ベンガル州の農民を支える開発調査コミュニケーションセンター代表。

■アンニャ・ライト <オーストラリア/エクアドル>

世界の森を守る運動を展開するシンガー・ソングライター、環境活動家。

スウェーデンに生まれ、オーストラリアに育つ。10代より環境・反核活動家として、オーストラリア、マレーシア、日本などを中心に活動。「ディープエコロジー」哲学にもとづく環境教育の実践でも知られる。1999年、日本の仲間たちとNGO「ナマケモノ倶楽部」を結成、以来その世話人をつとめる。

■阿部 治(あべ・おさむ)

元 愛・地球博 地球市民村アドバイザー、立教大学教授、特定非営利活動法人 持続可能な社会のための教育の10年推進会議(ESD-J)代表理事。

1955年、新潟生まれ。立教大学異文化コミュニケーション研究科教授(環境教育)。筑波大学大学院環境科学研究科修了。国立特殊教育総合研究所、筑波大学、埼玉大学を経て2002年より現職。現在は、(財)地球環境戦略研究機関環境教育プロジェクトリーダー、(社)日本環境教育フォーラム常務理事、日本環境教育学会運営委員などを務めている。

◇著作:「話して面白い環境学」(学研)他多数。

■オーレ・フィリプソン

元 2005年日本国際博覧会国際諮問委員会委員長。

デンマーク生まれ。1978年駐韓国大使、1985年駐コロンビア大使、90年セブリア万博デンマーク政府代表、1993年大田(テジュン)万博デンマーク政府代表。94年駐ベルギー大使、1994~2000年博覧会国際事務局(BIE)議長、2000年ハノーバー万博デンマーク政府代表兼運営委員会議長、2000~03年BIE名誉議長。

■中村 利雄(なかむら・としお)

(財)日本国際博覧会協会事務総長。

名古屋市中川区出身。1970年に旧通産省に入省し、総務審議官、貿易局長、中小企業庁長官を務め2001年7月に退官。2002年9月に協会に招かれ、副事務総長兼経営本部長として会場や催事の企画に手腕を振るってきたのち、2003年10月より現職。

「自然の叡智」という愛・地球博のテーマを市民参加事業の中に大きく活かし、持続可能な社会づくりに結びつけ、会期終了後も推進している。

■小川 巧記(おがわ・たくのり)

元 愛・地球博 市民参加プロデューサー、コンセプトディレクター／クリエイティブディレクター。

1954年東京生まれ TV番組のタイトルやCGデザイン、ドキュメンタリー番組の構成・演出などを経て、87年にビッグバン・ハウス(株)を設立。広告や博覧会を通して、市民・企業・行政を結ぶコミュニケーション・プランニングを行う。高齢者におけるシニアの社会参加の企画に多く携わる。